

| | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|-----|--------------|----|
| イチゴ新系統「96-36」および「96-38」の育成 | | | | | | | |
| [要約] 草姿が立性、果実が大果で着色の良いイチゴの新系統「96-36」および「96-38」を育成した。果汁の糖度は「とよのか」に比べ、「96-36」は同等、「96-38」はやや低い、収量は2系統とも多い。 | | | | | | | |
| 園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室 | | | | | 連絡先 | 092-922-4364 | |
| 部会名 | 園芸 | 専門 | 育種 | 対象 | 果菜類 | 分類 | 指導 |

[背景・ねらい]

本県で栽培されるイチゴの主要品種である「とよのか」は食味や香りが優れることから高く評価されている。しかし、草姿がやや開張性で果実の着色が劣り、着色促進などの管理作業に多くの労力を要することが問題である。

このため、草姿が立性で着色がよく、果実が大きく食味に優れたイチゴの新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「久留米53号」（野菜茶試・久留米支場育成系統）と「92-46」（本県育成系統）を平成8年度に交配して得られた実生から、新系統「96-36」および「96-38」を選抜した。
2. 「96-36」は、果実が短円錐形で「とよのか」に比べて大果である。草姿は立性で果実の着色が良く濃赤色である。果汁の糖度、酸度および果実硬度は「とよのか」と同等で、月別収量は12月及び4月が多く年間収量も多い（表1、図1、図2）。
3. 「96-38」は、果実が円錐形で「とよのか」に比べて大果である。草姿は立性で果実の着色が良く濃赤色である。果汁の糖度、酸度は「とよのか」に比べてやや低い糖酸比は同等である。果実硬度は「とよのか」に比べて果皮は硬く、果肉は同等で4月の収量が多く年間収量もやや多い（表1、図1、図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 職務育成申請後、品種登録出願予定。
2. 促成栽培や高設栽培適応性等について明らかにする必要がある。

[具体的データ]

表 1 育成系統の果実特性

| 項 目 | 9 6 - 3 6 | 9 6 - 3 8 | とよのか | |
|-----------|-----------|-----------|----------|------|
| 果皮色(色票番号) | 濃赤(0408) | 濃赤(0408) | 鮮赤(0407) | |
| 果形 | 短円錐 | 円錐 | 円錐 | |
| 果汁品質 | 糖度(%) | 8.9 | 9.9 | |
| | 酸度(mg%) | 750 | 640 | 718 |
| | 糖酸比 | 13.9 | 13.9 | 13.8 |
| 果実硬度 | 果皮(g) | 61 | 63 | 45 |
| | 果肉(g) | 20 | 17 | 20 |

- 注) 1. 果皮色 : 日本園芸植物標準色票による分類
 2. 糖度、酸度 : 糖度はBrix指数、酸度は果汁100ml当たりクエン酸含量
 3. 硬度 : ダイナグラフ測定値、プランジャー直径 2mm、ロードスピード10cm/秒
 4. 果汁品質、果実硬度は平成12年3月測定

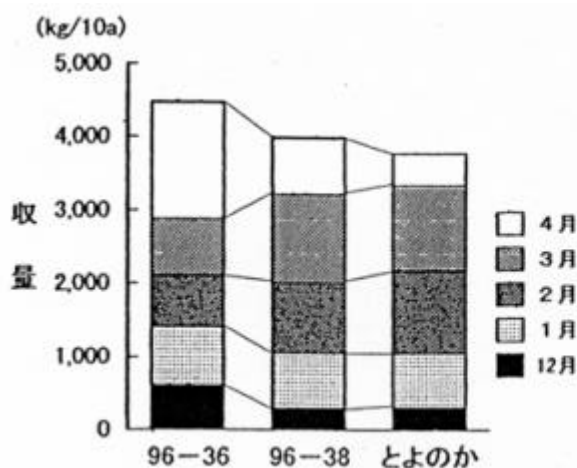


図 1 月別の収量(平成10年度)

- 注) 1. 作型 : 普通促成栽培
 2. 定植時期 : 平成10年9月26日

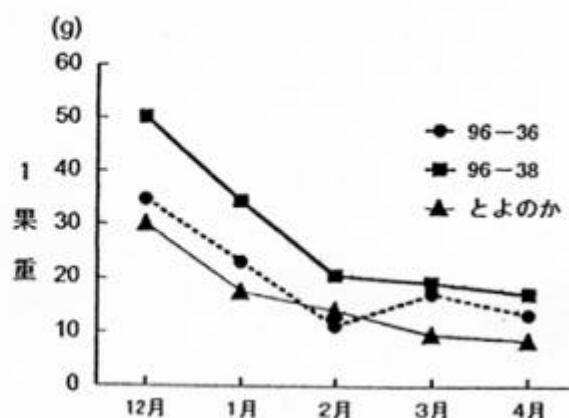


図 2 月別の平均果重の推移(平成10年度)

- 注) 図 1 に同じ

[その他]

研究課題名 : 省力栽培に適した高品質イチゴの育成

予算区分 : 県特

研究期間 : 平成11年度(平成8~12年)

研究担当者 : 三井寿一、藤田幸一、末吉孝行、伏原 肇

発表論文等 : 平成11年度 園芸研究所 野菜花き部 野菜試験成績書